

わたらしい生き方を選択するためのワークショップ事業の 中間報告（2回目）について

1 要旨・目的

「わたらしい生き方応援プランひろしま」に基づき、男女にかかわらず、人生のステージに応じた様々な働き方、学び方、生き方を実現する人が増えることを目指して、エソール広島と連携実施したワークショップ事業の第2回及び第3回交流会の開催状況を報告するとともに、今後、第4回を開催する。

2 現状・背景

性別に関する固定観念を解消し、多様な暮らし方の実現に向けた理解促進を図るため、令和3年9月及び10月に実施した参加型講座において、参加者から出された意見を基にテーマ設定し、ゲストスピーカーを招いて、課題解決のためのアイデアなどについて意見交換を行う交流会を実施中（第1回目を令和3年12月に実施）。

3 概要

(1) 実施主体

広島県（委託先：公益財団法人 広島県男女共同参画財団）

(2) 参加対象者

10代～30代くらいまでの大学生や社会人等 各回20人程度

(3) 実施方法

Zoomによるオンライン開催（エソール広島から配信）

(4) 開催内容

ア 第2回【実施済】

(ア) テーマ：「ちょっとどうなん？就活事情」

（就活などにおける身なりの問題から、性別による「外見への固定観念」の解消に向けて考える。）

(イ) 日時：令和4年1月30日（日）14:00～16:00

(ウ) ゲストスピーカー：^{らん} 栞 ^{しょうう} 暁雨（中国新聞社 報道センター記者）

(エ) ファシリテーター：^{まるやま} 丸山 ^{のりこ} 法子（(一社)リエゾン地域福祉研究所代表理事，社会福祉士）

(オ) 参加者：14人（学生9人，社会人5人 ※企業から応援参加の4人を含む）

(カ) 内容

（要旨）

- ・ゲストスピーカーからは、大学生などへの取材を通じて分かった、就職活動における服装やセクハラの実態、大学生や採用する企業側の声が紹介された。その後、そのような実態などに対する参加者の考えや違和感、課題解決のためのアイデアなどについて意見交換した。

(参加者の意見)

- ・就活事情について、初めて聞く話が多く、現状や問題点を知ることの大切さをあらためて認識した。
- ・就活の服装は黒のスーツや靴が当たり前で、個性を出すものではないと思っていた。

(企業の先輩の意見)

- ・企業は個性を求めているが、個性の出し方は服装ではなく、その企業を選んだ理由やビジョンをしっかり持っていることである。
- ・見た目の評価を気にしすぎる社会になっているが、もっと自分らしさを出してもいい。ただし、個性の出し方は、自己主張するだけでなく、相手の主張を踏まえた対応ができる必要がある。

(まとめ)

- ・「男だから、女だから」といった固定観念について、様々な場面で違和感があれば、疑問を持ち、考える習慣をつけることが大切であり、疑問を持った事に対しては、具体的にどのようなアクションを起こせば解消できるのかを考えることが大事であるということを参加者同士で共有した。

イ 第3回【実施済】

(ア)テーマ：「女性活躍の現状と課題」

～わたしらしく働ける社会を考えるリアルトーク～

(イ)日 時：令和4年2月19日(土) 10:00～12:00

(ウ)ゲストスピーカー： しまじ 嶋治 みほこ 美帆子 (広島電鉄株 経営管理本部 総務部長)

ふじわら 藤原 あきら 輝 (株ワーキンエージェント 取締役)

(エ)参加者：38人(学生24人、社会人14人 ※企業から応援参加の2人を含む)

(オ)内容

(要旨)

- ・ゲストスピーカーからは、女性活躍と言われるようになった労働社会の移り変わり、企業における女性の働き方、地域社会における女性の位置について、経験に基づく具体的な話があった。それを基に、参加者同士のグループワークでは、わたしらしく働ける社会となるために日頃感じていることや違和感、課題などを出し合い、その課題を解消し、わたしらしく働き、暮らしていくためのアイデアなどについて意見交換した。

(参加者の意見)

- ・ひとり一人が意識を変え、自分事として考え、発信していくことが大切である。また、講演会や社内教育など、考えるきっかけを作るための場を作っていくことが必要である。
- ・より働きやすい職場を作るには、違和感などがあれば仲間を見つけて主張し、組織の中で意見交換していく。
- ・育休や産休などの制度を組織内で活用していくには、日頃から周りとのコミュニケーションをとり、皆で共有できる空気感を作っていく。

- ・日頃から仕事のことだけでなく、プライベートも含めた人生のビジョンについて、仲間や上司と共有する。
- ・このようなワークショップや研修会などに、世代や職種を超えて参加し、理解を深めていくことが大切である。

(まとめ)

- ・自分が何を大事にし、相手が何を大事にしているかを理解しあうためのコミュニケーションは必要である。そして、これまで、先輩たちが言い続けてくれたから、社会が徐々に改善されてきているので、自分たちも、それぞれの立場で言い続けていくこと、発信していくことが大切であることを参加者やゲストの意見を通して、参加者同士で共有した。

ウ 第4回【予定】

(ア)テーマ：「家族」と自分らしい生き方

(イ)日 時：令和4年3月14日(月) 18:30～20:00

(ウ)ゲストスピーカー：^{もりた}森田 ひとみ (Morita キャリアプランニング代表)

(エ)ファシリテーター：^{まるやま}丸山 ^{のりこ}法子 ((一社)リエゾン地域福祉研究所代表理事，社会福祉士)

4 その他（今後の展開）

若い世代を対象にした、性別に関する固定観念への違和感や課題解決策などについての意見交換を引き続き実施し、多様な暮らし方の実現に向けた理解促進を図っていく。

また、このワークショップ事業で、参加者から出された「わたらしい働き方や暮らし方」を実現するための様々なアイデアなどを実行に移すため、来年度以降、少人数のチームの立ち上げを目指して参加者同士でブラッシュアップしながら、エソール広島を拠点として、課題解決に向けた座談会や情報発信等、主体的な活動に結びつけていく。